血圧計付きホルター心電図検査

概要

日常生活での心電図・血圧を 25 時間記録することで、行動による心電図・血圧の変化や何らかの自覚症状(胸痛・動悸・めまいなど)が起こったときの心電図・血圧を調べる検査です。

検査方法

検査機器・血圧計を装着した状態で日常生活を送っていただきます（25 時間程度)。また、日常生活の中での行動や自覚症状（動悸・胸痛など）を行動記録カードに記入していただきます。翌日（翌日が外来休診日の場合、次の平日）来院していただき、機器の取り外し・返却、記録の確認を行います。
※検査予約時に検査機器・血圧計の装着、行動記録カード・注意事項の説明を行います。

検査で分かること

長時間にわたって心電図・血圧が記録できるため、持続時間の短い脈の乱れや狭心症発作、血圧の日内変動などを調べることができます。
病院で行う心電図検査や血圧測定ではとらえることが難しい不整脈や心電図変化を検出することができ、血圧の変動から降圧薬の効果判定にも有用な検査です。

1．自覚症状と心電図変化の関係
2．不整脈の種類と重症度
3．狭心症の有無
4．不整脈や狭心症の治療効果
5．ペースメーカーを装着されている場合、正常に作動しているか
6．血圧の日内変動（血圧測定の間隔は患者様により異なります）

注意事項

・日常生活を送っていただきますが、機器が水に濡れると故障してしまうため、シャワーや入浴はお控えください。
・電気毛布などの機器と直接接するような電化製品の使用はお控えください。電気毛布を使用する際は温めた後に電源を切っていただくか、足元のみの使用としてください。
・携帯電話、パソコンは普段通り使用可能です。
・機器装着中はレントゲン、CT、MRI などの検査を受けることができないため、主治医へご相談ください。
・ご記入いただいた行動記録カードは再度ご来院される際に忘れずにご持参ください。

所要時間

約 40 分程度（機器の装着・説明）　その後、翌日の返却時まで 25 時間装着

血圧計付きホルター心電図検査

よくある質問

Q：以前に検査を実施したとき、電極でかぶれてしまった。
A：装着の際には皮膚の保護剤や肌に優しいテープを使用し、できる限り肌かぶれを予防するような工夫をしていますが、記録中にシール電極が外れないようにするためしっかりと皮膚に貼り付ける必要があります。皮膚の弱い方はかぶれる場合がありますので、担当技師にご相談ください。
Q：電極シールが外れた場合、どうすればよいですか？
A：可能であれば電極シールを元の位置へ貼り直してください。位置が分からない場合や電極シールが使えない場合（破れてしまったなど）には、シールが外れた時間もしくは外れたことに気が付いた時間を行動記録カードに記入していただき、ご来院いただいた際に担当者へお伝えください。
Q：返却は次の日でないといけませんか？
A：原則、翌日（装着時より 25 時間後）にご来院いただき、機器の取り外しを行います。ただし、装着から 25 時間後が外来休診日の土曜午後、日曜・祝日となる場合、ご自身で取り外していただき、次の平日の午前 10 時までの返却をお願いしています。ご都合により返却時間が遅くなる場合、担当技師へご相談ください。可能な限り返却日時・時間の調整はさせていただきますが、ご要望に沿えない場合があることをご了承ください。
Q：血圧計のカフがずれてしまった場合、どうすればよいですか？
A：可能であれば血圧計のカフを元の状態へ戻してください。位置が分からない場合には、カフが外れた時間もしくは外れたことに気が付いた時間を行動記録カードに記入していただき、ご来院いただいた際に担当者へお伝えください。